



これで21人目か…地下には
はいたたい何人、♣に同化
された被害者がいるんだ？

それは何とも言えないな、
だから常に警戒しておけよ、
いつ泥魔に不意打ちされる
かわからない..



船長に手を出す気か..？



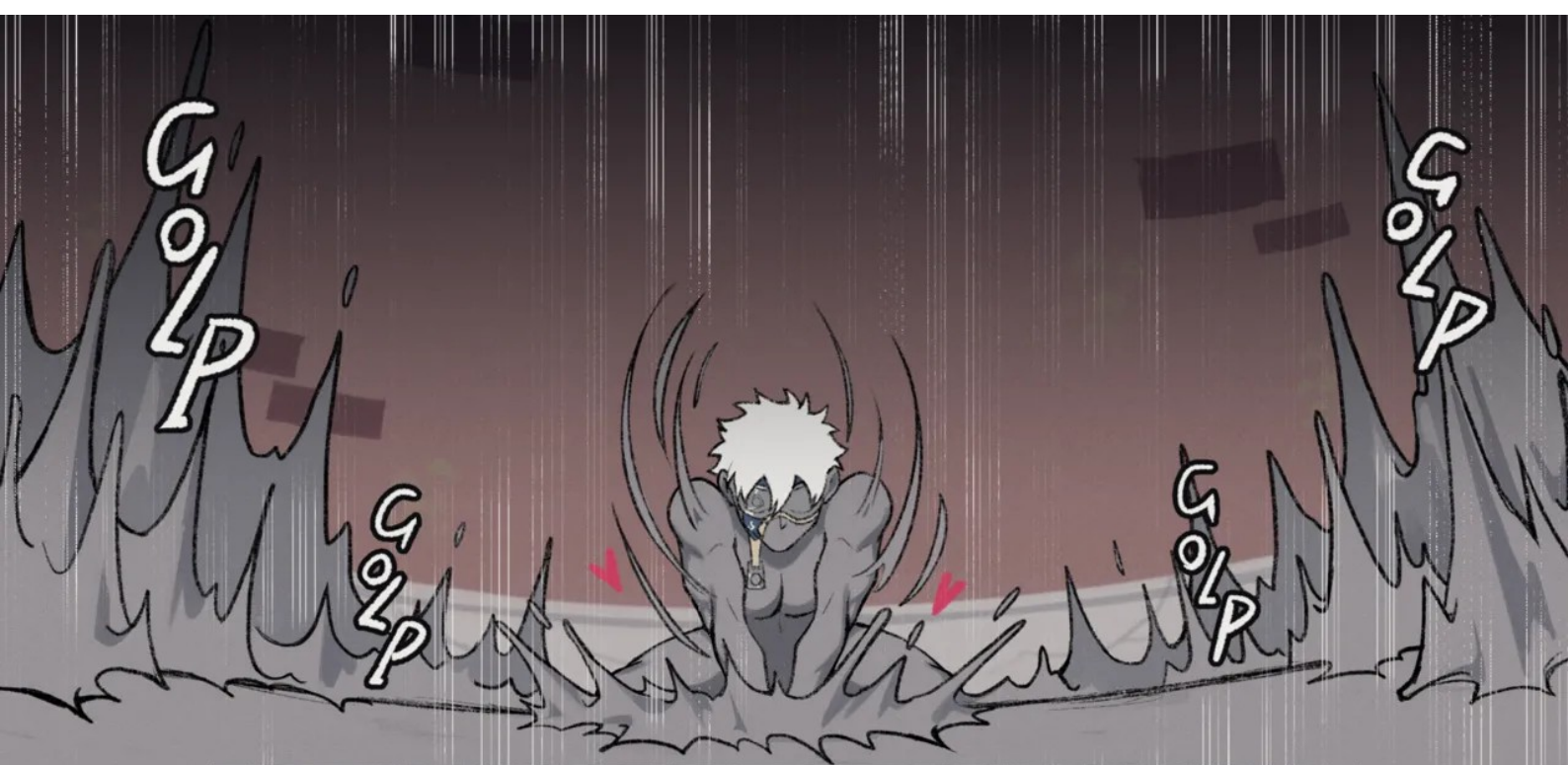
俺を倒して
からにしな..!!

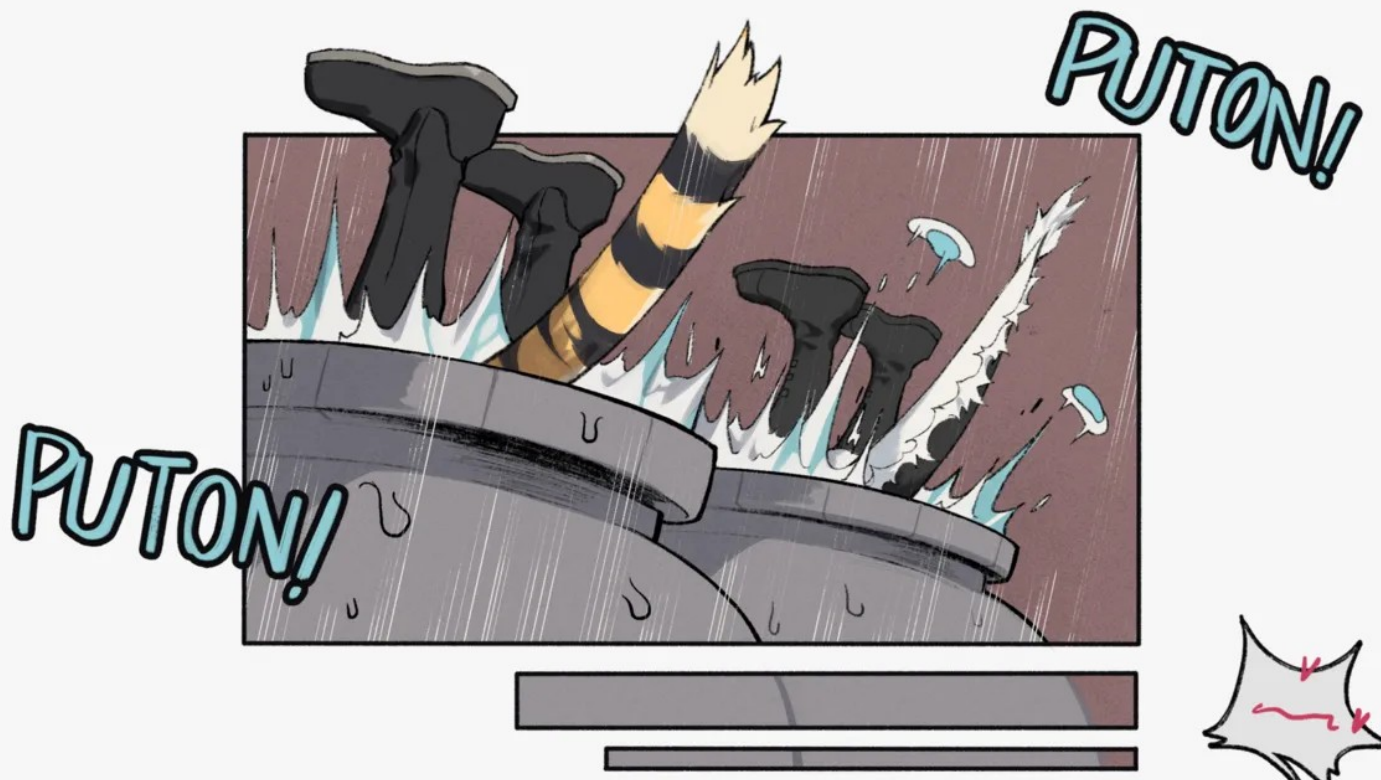
危ない！



へへへっ...!もう遅いぜ..!





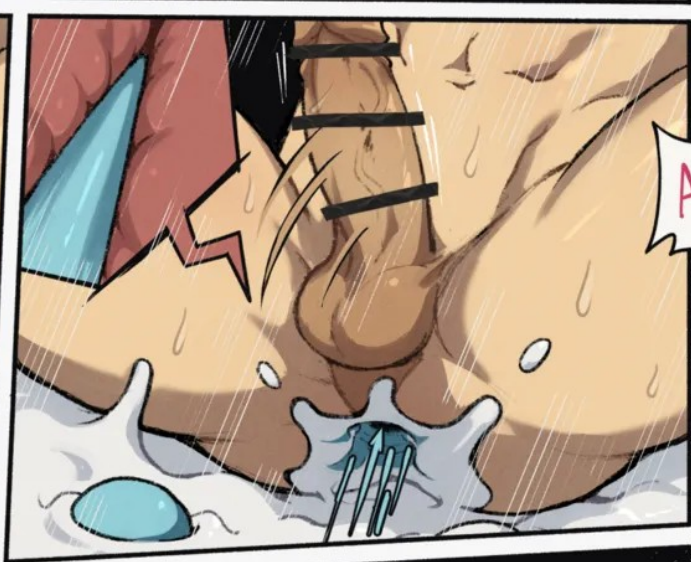
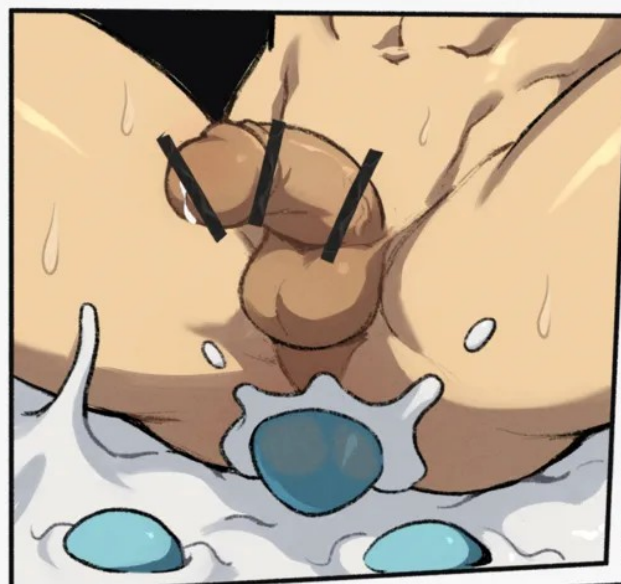




早く! こいつらを石化
しろ! ぐはっ!

能力は無限じゃない..!

一度使ったら.. ぐっ
再発動まで時間
がかかるんだ!



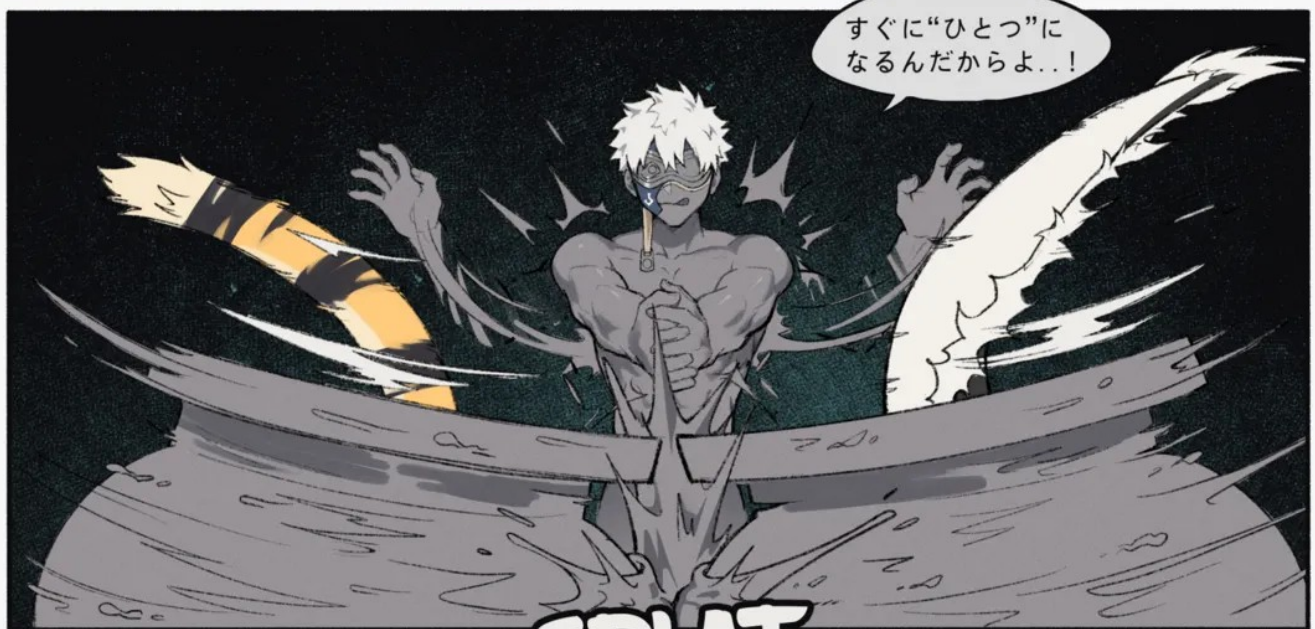
AH



おい! 顔にかか
てるじゃねえか!



お、お前だっ
てそうだろう
が..?!

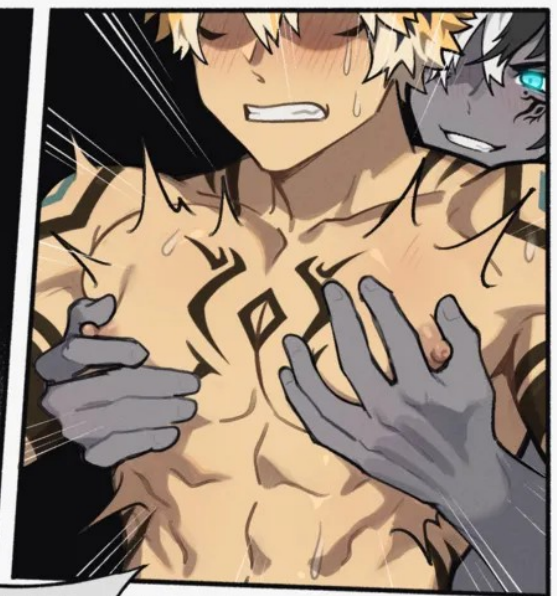


SPLAT





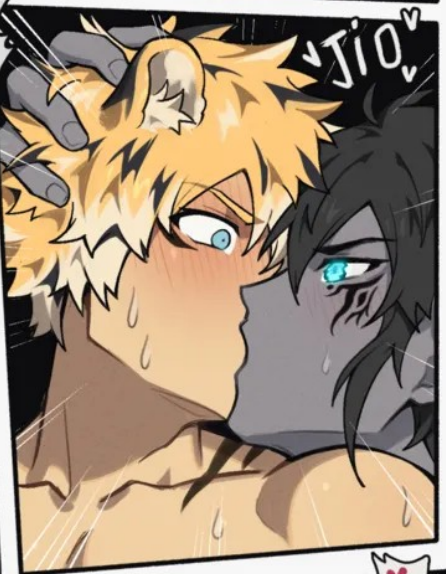
くそっ！お前を石にしてやる..！



おい！お前、どうしてあっさり泥怪の奴隷に..！

しっかりしろっての..ううっ...!!

お、お前..いい匂いにする..



はあ...！

PA



挿れただけでイっちゃうのか？そんなに気持ちいいか..？

さあ、俺たちと一つになれ！このたまらない快感に溺れるんだ！



な、なんだ.. お前の体が無性に魅力的に感じる..?!

PA!

PA!

止まらない..!

PA!

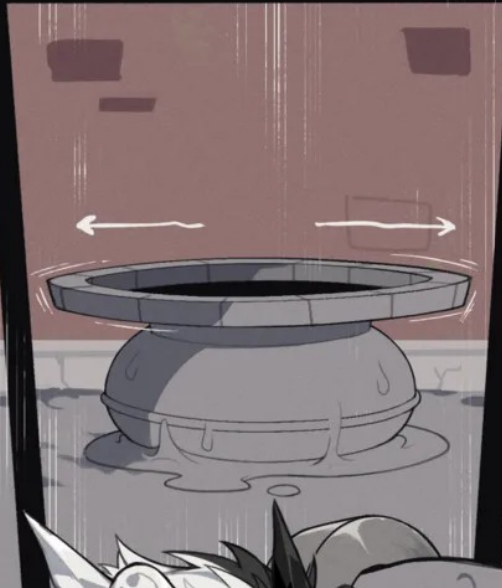
ふふ.. もうお前の意志は蝕まれてるんだよ..

受け入れてくれ! この快感の海で.. 俺と溶け合おうぜ! たっぷり犯して.. とろけるまで俺をイかせてやる...!

ダメ.. やめて..

やっ..





記憶に刻まれた龍根の脈動。
虎腰の衝撃がまだ蘇る。。

精液、意識、快感.. 全て
混ざり合って.. たまらん、
止めたくない!...!

奴らの本能も欲望も..
今や全てが俺のものだ...!

二匹のケモノが鍋の中で
魂が溶けるまで交わり合い..
お前はまさに..肉棒の衝撃
が生んだ絶頂の結晶だ..



完璧な出来映えだ..!
船長様に届けるとしよう。



船長に捧げる
前に..
味見したく
ならないか..?

うぁ..!



...!

鍋を覗き込むその
目..きっと参加し
たいんだろ..!

Ah!

Ah!

俺が満足するま
で..溶けるほど
犯されて耐えて
みせるよ..!

Ah!

♡!

Ah!

Ah!



どうだい..? この体は美味しいか? お前の手で鍛え上げられたものだけ..

奥まで絞り取るその小穴.. よほど気に入ったようだな?

虎君がお前を石化したい気持ちも受け継いでいるが.. 怖がるな、とっても『キモチイイ』思いをさせてやる..!

なっ?!

や、やめろ..!

はあっ..!!

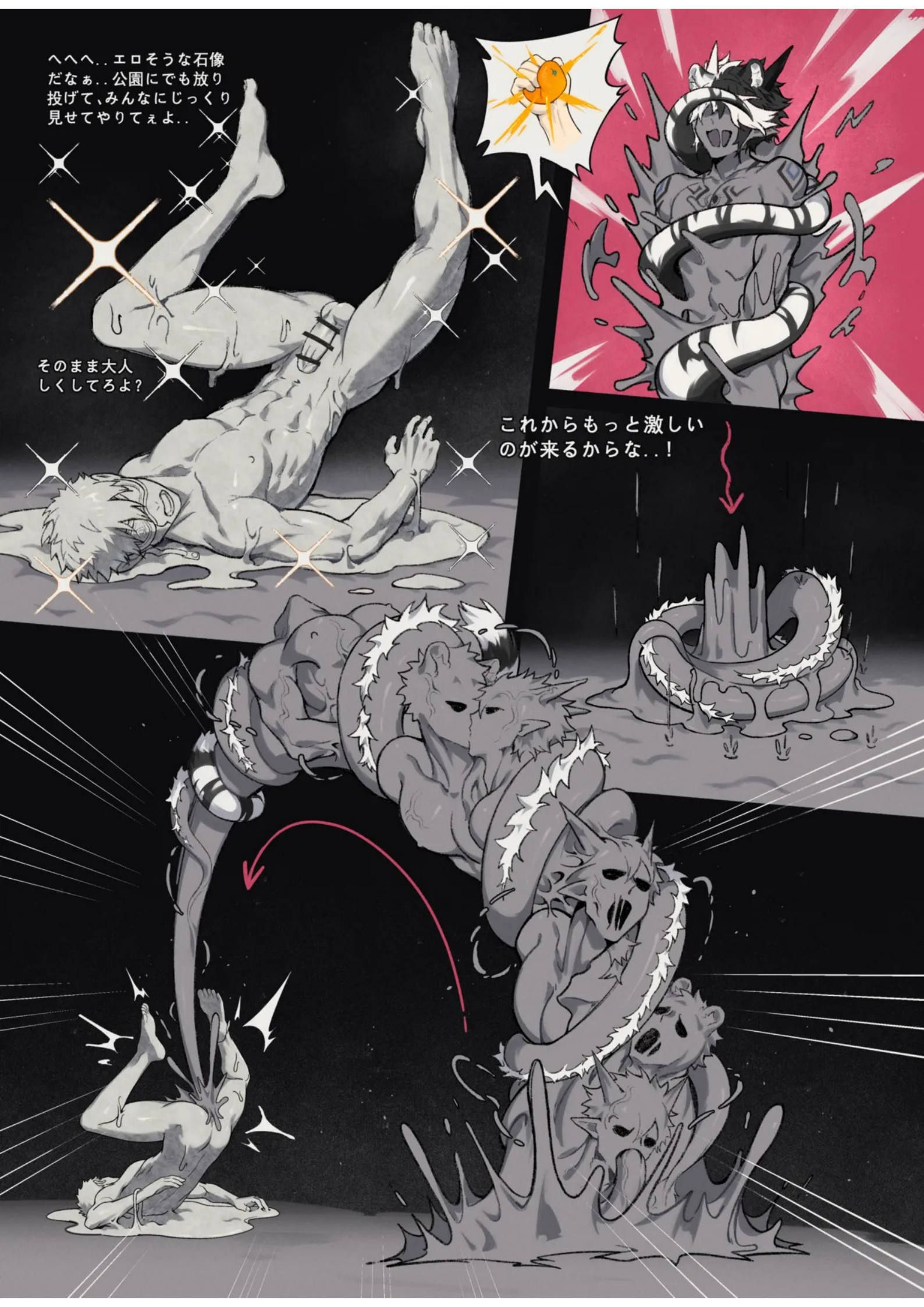
肉棒を咥えたまま石化するとはな.. お前の穴、永遠に俺の形に固定されてるぜ..

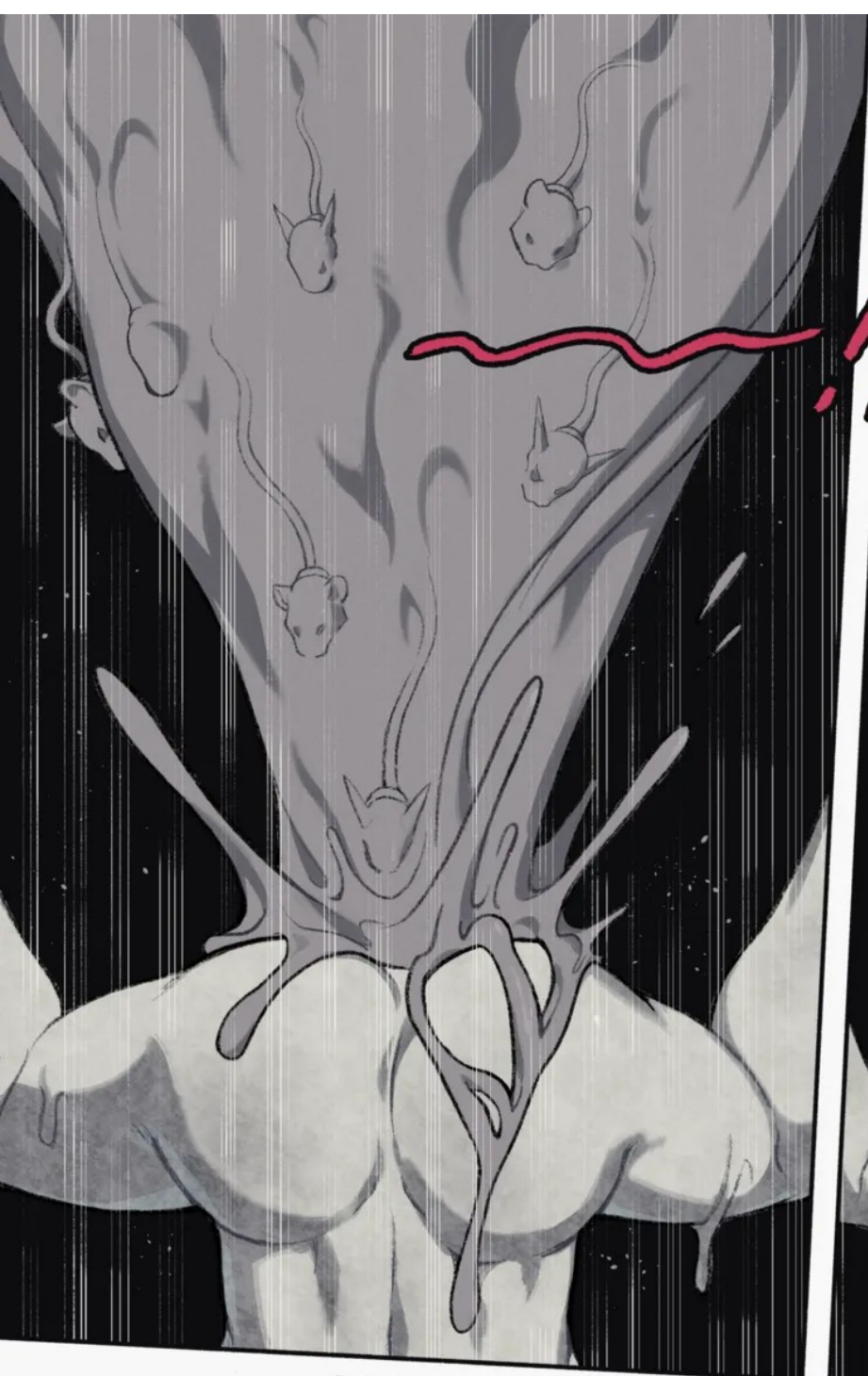
Bo!

へへへ.. エロそうな石像
だなぁ.. 公園にでも放り
投げて、みんなにじっくり
見せてやりてえよ..

そのまま大人
しくしてるよ?

これからもっと激しい
のが来るからな..!







BOOM!

ようこそ..君はもう『私たち』の一部だ...

鍋の中で交わり合った記憶と快感..全てが私に流れ込む..!ああ..まるで自分が体験したかのようだ..!

三つの体と記憶をありがとう..ふふふ..この身に沈んでくれ!



私の意志は最早誰のものでもないが...心はまだ船長様に捧げられている...!

境界線などない..流動し、浸透し、交換し合うだけ..

射精する必要もない..なぜなら我々こそが精液=快感の化身だからだ...!
この愉悦に終わりはない...!
循環し、昇華し続けるのだ...!!!



コック君..お前の役目は私が代わりに果たそう..『料理』と共に船長様へ届けるのは..お前自身だ!